**５．女性の人権について**

**問１４　女性に関する人権上の問題点**

**あなたは、女性の人権問題について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。**

**次の中から選んでください。（○は３つまで）**

１．「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要される

こと

２．職場における差別的な待遇　　３．職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント

４．夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）

５．会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと

６．女性に対するストーカー行為　　７．｢婦人｣「未亡人」など女性だけに用いられる言葉

８．女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告

９．売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）　　10．痴漢行為　　11．特に問題はない

12．わからない　　13．その他（　　）

全体集計



「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の割合が36.1％と最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」が33.5％、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が31.5％となっている。



性別集計

性別でみると、男性は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の割合が最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」、「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の順となっている。

女性は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の割合が最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の順となっている。

「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が最も男女差が大きく、女性(28.7％)よりも男性（36.5％）の方が7.8ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、10～40歳代は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」、50歳代は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」、60歳代以上は「職場における差別的な待遇」の割合が最も高くなっている。

過去の調査との比較

割合が高い順に比較

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **前回（平成２５年度）** | | **今回（令和元年度）** | |
|
| 1 | 職場における差別的な待遇 | 34.9% | 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること | 36.1% |
| 2 | 男女の固定的な役割分担 | 30.4% | 職場における差別的な待遇 | 33.5% |
| 3 | 職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント | 27.6% | 職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント | 31.5% |
| 4 | 夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV） | 24.9% | 会社役員、管理職などに女性が十分参画 していないこと | 23.5% |
| 5 | 女性に対するストーカー行為 | 23.2% | 痴漢行為 | 23.5% |
| 6 | 議員や会社員役員、管理職などに女性が十分参画していないこと | 22.6% | 夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV） | 22.5% |
| 7 | 痴漢行為 | 19.7% | 女性に対するストーカー行為 | 18.6% |
| 8 | 売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む） | 10.9% | 売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む） | 8.8% |
| 9 | わからない | 10.4% | わからない | 6.9% |
| 10 | 特に問題はない | 5.6% | 女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびた ポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告 | 6.3% |
| 11 | 女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告 | 5.5% | ｢婦人｣「未亡人」など女性だけに用いられる言葉 | 4.0% |
| 12 | ｢婦人｣「未亡人」など女性だけに用いられる言葉 | 4.6% | 特に問題はない | 3.9% |
| 13 | 無回答 | 1.5% | 無回答 | 1.9% |
| 14 | その他 | 1.2% | その他 | 1.3% |

前回の調査では「職場における差別的な待遇」の割合が最も高かったのに対して、今回は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」が最も高く、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」や「会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと」が上位に位置している。

**問１５　女性の人権を守るために必要なこと**

**あなたは、女性の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。  
 次の中から選んでください。（○は３つまで）**

１．学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる

２．採用や昇進時などにおいて男女のあつかいを平等にすることを、企業などに働きかける

３．男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する

４．仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える

５．公的機関、企業などの政策や方針の決定に、より多くの女性が参画できるような環境を整える

６．男女平等の視点に立って、地域における習慣やしきたりの見直しを行う

７．女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する

８．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）への対応を強化する

９．女性のための相談体制を充実させる　　10．特にない　　11．わからない　　12．その他（　　）

全体集計



「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が60.0％と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える」が44.9％、「学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる」が30.0％となっている。



性別集計

性別でみると、男女ともに「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える」、「学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる」の順となっている。

「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が最も男女差が大きく、男性（55.5％）よりも女性（64.2％）の方が8.7ポイント高くなっている。

年齢別集計



年齢別でみると、すべての年齢層で「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が最も高くなっている。